権力の最盛期には，弥勒寺･宇佐神宮複合施設の指導者達は周囲全体の地域の支配者であった。彼らは山の尾根にあるいは国東半島の沿岸に位置する下級神社や系列寺の多くを管理していた。

　御許山，その標高647メートルの頂上は宇佐神宮の真南に位置するが，地元の神道の神々が宿る場所であると信じられている。それは八幡への最初の神社の場所であり，やがては宇佐神宮になった。西暦8世紀までには山伏として知られる山の僧たちが崇拝し，神道･仏教の儀式を山で行った。今日でもまだ宗教的な道標で記された痕跡と宇佐神宮から御許山の頂上に通ずる山伏によって作られたであろう神聖な場所を見つけることができる。御許八坂神社という小さな神社が頂上にあり，今もさまざまな儀式や祭典を行っている。